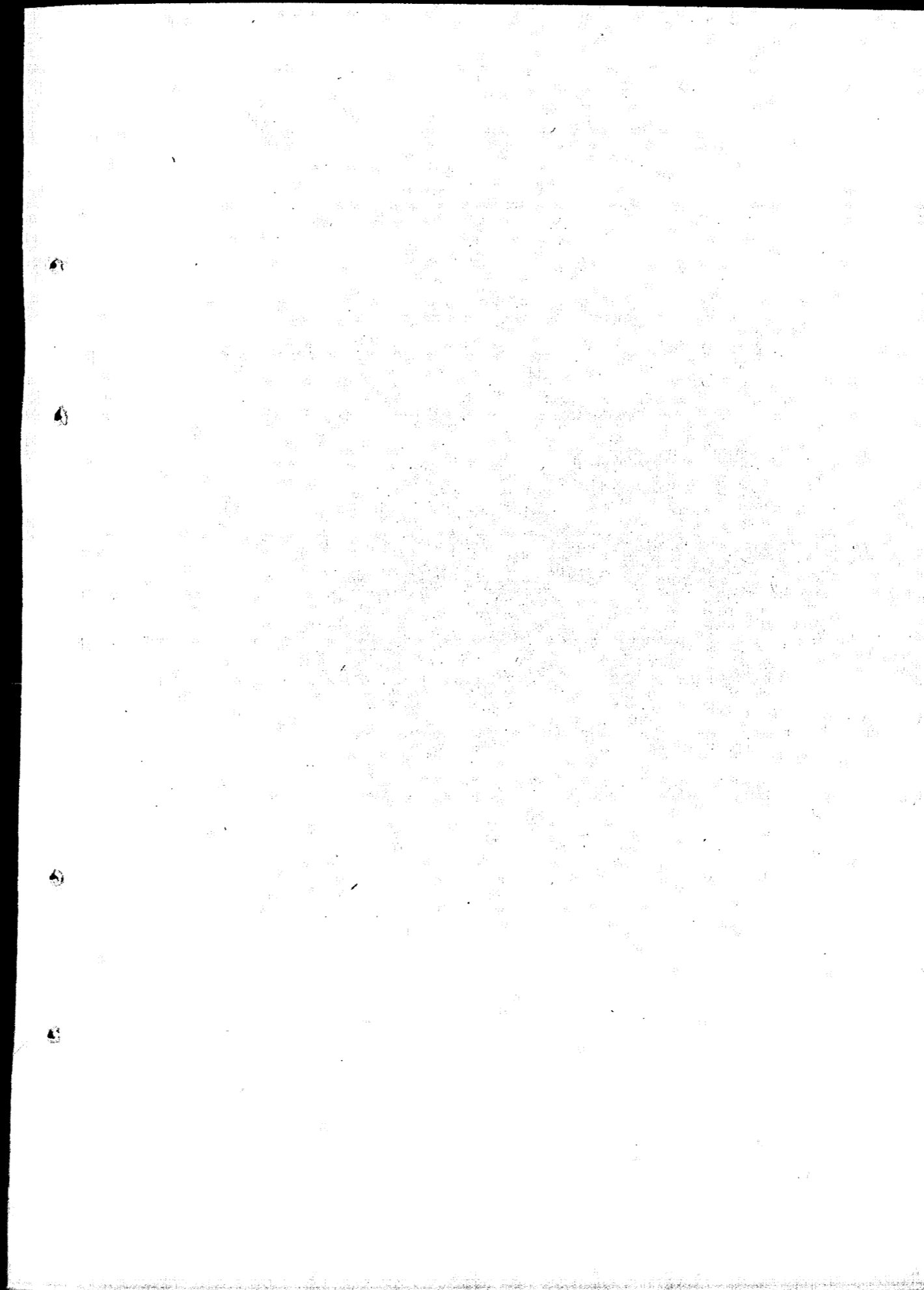


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

国立公文書館	
分類	返 青
	3 A
排架番号	15
	62-18

62-18



Item No. 19

自昭和十八年度

院報附録

野島埼燈臺

国立公文書館	
分類	③ ④
	3 A
	15
配架番号	62-18

裏面白紙

裏面白紙

院報附錄

第一號
昭和十七年九月十四日(月曜日)

達

第六號

海務院取扱規程左ノ通定ム
海務院取扱規程 松木益吉
昭和十七年九月十四日

海務院取扱規程

- 第一條 海務院取扱規程ハ本規程ニ依リ院報ヲ遂ニ號發行シテ以テ海務關係官署ニ對シ周知ヲ要スル事項ヲ掲載ス
- 第二條 院報ハ每週月曜日發行ス
- 第三條 院報ハ掲載ヲ要スル文書ハ院報掲載ト朱書シ官房庶務課長ヘ合評スヘシ
- 第四條 掲載原稿ハ每週水曜日迄ニ二部官房庶務課ヘ提出スヘシ
- 第五條 院報ヘ掲載事項ハ左ノ通りトス
 - 一、達
 - 二、訓令
 - 三、指 令
 - 四、通 牒
 - 五、照 會
 - 六、指令回答
 - 七、告 知
 - 八、叙任辭令
 - 九、彙 報

第六條 緊急又ハ秘密ヲ要スル事項或ハ一部ニ對シ發スルモノハ院報ニ據ラス文書又ハ電報ヲ以テスヘシ

第七條 院報ハ海務關係官署及海運行政ニ直接ノ關係ヲ有スル他ノ官廳又ハ團體等ニ配付スヘシ

第八條 前條ノ配付部數ハ別表ニ依リ但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 院報ノ配付ヲ受ケタルトキハ直ニ熟覽シ相當處理ノ上順次編綴保存スヘシ

第十條 不審ト認メラルル院報ハ直ニ之ヲ官房庶務課ニ請求スヘシ

附 則
本達ハ本日ヨリ之ヲ施行ス

別 表
長官、次長、部長、課長、書記長、事務官、海務官、技師、係ハ各一部トス但シ係ニシテ職員以上ノ定員十人ヲ超ユルトキハ二部ヲ増シ二十人ヲ超ユルトキハ十五人迄ヲ加フル毎ニ一部ヲ増スコトヲ得

本 院
局長、部長、課長、係、分室ハ各一部トス 支局ニシテ係ヲ置カサルル局ハ二部、課ヲ置カサル支局ハ一部トス但シ係ニシテ職員以上ノ定員十人ヲ超ユルトキハ二部ヲ増シ二十

海務局
部トス但シ係ニシテ職員以上ノ定員十人ヲ超ユルトキハ二部ヲ増シ二十

人ヲ超ユルトキハ十五人迄ヲ加フル
每ニ各一部ヲ増スコトヲ得
船舶試驗所 船舶試驗所ハ四部トス
支所駐在ハ各一部トス

高等商船學校 三部トス
海員養成所 各三部トス
高等海員審判所 各一部トス
地方海員審判所 各一部トス
航海職業紹介所 各一部トス

遠、通牒、告知等ニ使用スル左記箇所總括ノ稱呼ヲ自今海務關係官署ト定ム
昭和十七年九月十四日

海務院取扱規程 松木益吉

海務院
船舶試驗所
高等商船學校
海員養成所
航海練習所
海務局
船員職業紹介所
高等海員審判所
地方海員審判所

附 則
本達ハ本日ヨリ之ヲ施行ス

訓 示
訓示第一號

海務關係官署
凡ソ海務ニ從事スル職員ハ常ニ海務行政ノ重

要性ニ思フ致シ其ノ職務ニ精勵格闘シ關係法規ニ精通シ克ク實務ニ習熟シ以テ萬般ノ事務ヲシテ滞リナカラムルト共ニ進ニテ諸施設ヲ速ニ樹立遂行スルハ大東亞建設ニ邁進シテソアル帝國ノ絕對的義務ナリ茲ニ右要請遂成ノ一助トシテ達第六號ヲ以テ院報取扱規程ヲ制定シ院報ヲ發刊ス

各員發刊ノ主旨ヲ體シ處務能率ヲ向上シ以テ時局ノ要請ニ應フヘシ
昭和十七年九月十四日

海務院取扱規程 松木益吉

海務院取扱規程及達通牒告知等ニ使用スル本院海務局其ノ他ノ總括稱呼別途制定セラレ本日ヨリ施行ノ付ト相成リタルニ付取扱規程及左記了知ノ上可然醜意相成度依命

院報ヘ掲載シタル事項ニ對シテハ別ニ文書ノ發送ヲ爲ササルニ付關係ノ向ハ直ニ之ニ依リ處理ノコト

海務院取扱規程 松木益吉

海務院取扱規程 松木益吉

海務院取扱規程 松木益吉

海務院取扱規程 松木益吉

海務院取扱規程 松木益吉

海務院取扱規程 松木益吉

海務院取扱規程 松木益吉

海務院取扱規程 松木益吉

海務院取扱規程 松木益吉

海務院取扱規程 松木益吉

海務院取扱規程 松木益吉

第一號 昭和十七年九月十四日

昭和十七年十月廿九日

院報附録

第 二 號
昭和十七年十月十九日(月曜日)

通 牒

○海航標第三二二三號

昭和十七年十月七日

標 識 課 長

各 所 一 般

院報附録發行ニ關スル件
今般海務院報發シラレタル處航路標識關係ノモノハ從來ノ燈臺局報ニ掲載セラレタル拔萃敍任階令ヲ除キタルモノヲ院報附録トシテ別ニ發行配付セラルルコトト相成候ニ付テハ之カ配付ヲ受ケタル場合ハ海務院報取扱規程第九條ニ依リ處理ノ上缺號等ノ場合ハ當課ヘ請求相成度

○海航標第二二七九號

昭和十七年十月六日

標 識 課 長

各 所 一 般

妊届出期日勵行ノ件

懷妊届ハ家族取扱手續第五條ニ依リ出産期五ヶ月前ニ提出スベキモノナル處近時之ヲ届出ノ期日ヲ勵行セズ轉勤等ノ命ヲ受ケ始メテ旅行上ノ支障等ヲ申出ヅル向アルモ右ハ異動其ノ他ニ關シ參考トシテ重要ナルモノニ付爾后右届出期勵行相成度依命

○海航標第三二二六號

昭和十七年十月六日

標 識 課 長

各 所 一 般

各所屬備人家族取扱手續ニ關スル件
身分上必要ニ付爾今各所屬備人ノ家族ハ各所在動標識技手家族取扱手續ニ準ジ處理セラレベキ義ト諒知相成度
追テ備人ニ關シ第四條及第五條ノ届出ハ不要ニ付爲念

業 報

○梶泉燈臺ハ九月十五日ヨリ標識技手ノ常置ヲ廢止シ襟裳神燈臺職員ノ兼務個所ニ改メラレタリ

第三號 昭和十七年十月十九日

裏面白紙

昭和十七年十月廿二日

院報附錄

第二二號

昭和十七年十月十九日(月曜日)

通牒

標識課長

○海航標第三二一三號

昭和十七年十月七日

標識課長

各所一般

院報附錄發行ニ關スル件

今般海務院報發シラレタル處航路標識關係ノモノハ從來ノ燈臺局報ニ掲載セラレタル拔萃倣任降令ヲ除キタルモノヲ院報附錄トシテ別ニ發行配付セララルコトト相成候ニ付テハ之カ配付ヲ受ケタル場合ハ海務院報取扱規程第九條ニ依リ處理ノ上缺號等ノ場合ハ當課ヘ請求相成度

○海航標第三二七九號

昭和十七年十月六日

標識課長

各所一般

船出期日履行ノ件

懷妊届ハ家族取扱手續第五條ニ依リ出産期五ヶ月前ニ提出スベキモノナル處近時之ガ届出ノ期日ヲ履行セズ轉勤等ノ命ヲ受ケ始メテ旅行上ノ支障等ヲ申出ツル向アルモノハ異動其ノ他ニ關シ參考トシテ重要ナルモノニ付爾后右届出期履行相成度依命

○海航標第三二二六號

昭和十七年十月六日

各所一般

各所雇傭人家族取扱手續ニ關スル件

身分上必要ニ付爾今各所雇傭人ノ家族ハ「各所在勤標識技手家族取扱手續」ニ準ジ處理セラルベキ義ト諒知相成度
追テ傭人ニ關シ第四條及第五條ノ届出ハ不要ニ付爲念

彙報

○幌泉燈臺ハ九月十五日ヨリ標識技手ノ常置ヲ廢止シ燈臺神燈臺職員ノ兼務個所ニ改メラレタリ

第三號 昭和十七年十月十九日

裏面白紙

昭和十七年十一月廿五日

院報附録

第三號 昭和十七年十一月十六日(月曜日)

通牒

海航標三三五號

昭和十七年十月二十二日

標識課長

各所一般

羅州丸出帆ノ件

本年度第二回航路標識視察船日割別表ノ通りニ付了知相成度

別表

昭和十七年度第二回視察船航日割別表

(一) 八碓泊地

渡船欄ノ數字ハ第何日目ナルカヲ示ス

標識名 齋 後 記事

横濱

(下) 山

神子元島退息所 下山碓泊中

瓜木島 二

神子元島 三

神島 四

足摺島 五

土佐沖ノ島 六

佐田島 六

(同) 七

都筑火ノ山下 門碓泊中

下關満珠島 九

沖ノ島退息所 九

島帽子島 九 九

呼子島退息所 九 〇

二島 一 〇

古志島 一 〇

同退息所 一 〇

若島 一 〇

豆破島 一 〇

三島 一 〇

(大) 連 一 〇

四島退息所 大連碓泊中

大連方位借號所 大連碓泊中

黄白島 一 八

大三山島 一 八

圓島 一 九

遇岩 一 九

(旅) 嶋 一 九

老尾尾、白玉山 旅順碓泊中

磯珠岩、老磯山 旅順碓泊中

(長) 崎 二 四

伊玉島、蔭ノ尾島 長崎碓泊中

西消ハシ、下ノ瀨 長崎碓泊中

黄島 二 六

(玉) 浦 二 六

大島退息所 玉ノ浦碓泊中

先之港 二 八

湯島 二 九

(三) 池 二 九

(三) 角 三 〇

戸島 三 〇

戸島 三 〇

釣掛島 三 〇

(枕) 崎 三 〇

坊久島 三 〇

曾津高島 三 〇

伊江島 三 〇

(那) 那 三 〇

先重原 三 〇

三子ヶ島 三 〇

(鹿) 島 三 〇

佐多島 三 〇

郡井島 三 〇

(油) 津 三 〇

鞍島 三 〇

細島 三 〇

横濱 三 〇

彙報

○航路部ハ十一月一日日本橋區通一丁目白木屋五階ヨリ麹町區大手町二丁目四番地へ移轉セリ

第三號 昭和十七年十一月十六日

裏面白紙

昭和十七年十二月十四日

院報附録

昭和十七年十二月十四日(月曜日)

通牒

○海官第三三〇號

昭和十七年十二月十四日

官房庶務課長
航路部長

各燈臺長
各信號所長

○海官第三三〇號

從來航路標識在勤ノ職員ニ貸與シ來リタル襟章ハ時局下之ヲ製作不能トナリタルニ付テハ目下代品ノ對策講究中ナルモ差向キ新任者ニ貸與ノ都合上現在職員ノ保有スル三組ノ内一

組ヲ返納乃至急何分ノ取計相成度
追テ右ハ各職員分ヲ取極メ航路部横濱出張所宛送付ノコト

○海航標識第二五九四號

昭和十七年十二月十四日

標識課長

各所一般

外出特許ノ件中追加ノ件

昭和十三年四月燈臺第三七號外出特許ノ件左記ニ左ノ追加加シ昭和十七年十一月一日ヨリ之ヲ實施スルコトナリタルニ付諒相成度

燈臺名	外出回数	一回ノ外出時間	外出場所	備考
細島	一個月一回	二十四時間以内	延岡市町	(外出回数ハ所員一人ニ對スルモノトス)
大角鼻	三個月一回	四十八時間以内	高松市	同上

○海航標識第二六四五號

昭和十七年十二月十四日

標識課長

各所一般

外出特許ニ關スル件

友ヶ島燈臺ニ於ケル一回ノ外出特許時間「二十四時間以内」ヲ「三十六時間以内」ニ改定シ昭和十七年十二月一日ヨリ實施スルコトトナリタルニ付諒相成度

○海航標識第二六五五號

昭和十七年十二月十四日

標識課長

各燈臺長

各信號所長

備入備入方ニ關スル件

燈臺第一一〇七號(二六、一〇、二二〇)關聯
彙三昭和十六年十月三十三日燈臺第一一〇七

○海航標識第二六六四號

昭和十七年十二月十四日

標識課長

各燈臺長

各信號所長

選信報國團統後後援會事業資金

贈金方ノ件

今般選信報國團統後後援會資金充振ヲ圖ル爲十二月分俸給料ヨリ月額二百分ノ一ニ相當スル額ヲ贈金ノコトト相成タルニ付テハ貴臺ニ於テモ之ヲ取極メノ上振替橫濱四〇番宛(内譯明記ノコト)送付相成度

○海航標識第二六二三號

昭和十七年十二月一日

標識課長

各燈臺長

各信號所長

電報文ニ關スル件

從來各航路標識ヨリ本部宛電報照會ヲナス際往々電報番號ノミヲ記載打電スル尙有之處理上支へ候付テハ今後ハ件名ヲ要約記入相成度

附録 昭和十七年十二月十四日

裏面白紙

昭和十七年三月拾八日

院報附錄

昭和十七年十二月十四日(月曜日)

通 牒

○海官第三三〇號

昭和十七年十二月十四日

官房庶務課長
航路部長

各燈臺長
各信號所長

兼章返納ニ關スル件

從來航路標識在勤ノ職員ニ貸與シ來リタル襟章ハ時局下ニ於テ製作不能トナリタルニ付テハ目下代品ノ對策講究中ナルモ差向キ新任者ニ貸與ノ都合上現在職員ノ保有スル二組ノ内一

組ヲ返納乃至急何分ノ取計相成度

追テ右ハ各職員分ヲ取計相成度航路部横濱出張所宛送付ノコト

○海航標識第二五九四號

昭和十七年十二月十四日

標識課長

各所一般

外出特許ノ件中追加ノ件

昭和十三年四月燈臺第二七號外出特許ノ件左記ニ左ノ通過加シ昭和十七年十一月一日ヨリ之ヲ實施スルコトナリタルニ付諒知相成度

燈臺名	外出回数	一回ノ外出時間	外出場所	備考
細島	一個月一回	二十四時間以内	宮島町	(外出回数ハ所員一人ニ對スルモノトス)
大角鼻	二個月一回	四十八時間以内	高松市	同上

○海航標識第二六四五號

昭和十七年十二月十四日

標識課長

各所一般

外出特許ニ關スル件

友ヶ島燈臺ニ於ケル一回ノ外出特許時間(二十四時間以内)ヲ「三十六時間以内」ニ改定シ昭和十七年十二月一日ヨリ實施スルコトナリタルニ付諒知相成度

○海航標識第二六五五號

昭和十七年十二月十四日

標識課長

各燈臺長
各信號所長

備入備入方ニ關スル件

燈臺第一二〇七號(二六、一〇、二三)關聯
並ニ昭和十六年十月三十三日燈臺第一二〇七

號備入及臨時人夫備入方ニ關スル件ヲ以テ事務簡便ノ主旨ニ依リ補充ノ爲日給壹圓參拾錢以下ノ備入ヲ採用スルコトニ付キテハ經何ヲ要セザル旨諒知相成度候處行政簡素化ニ依ル定員ノ關係モ有之當分ノ間右ノ場合ハ何出ノ上處理ノコトト了知相成度

○海航標識第二六四四號

昭和十七年十二月十四日

標識課長

各燈臺長
各信號所長

通債報國團統後後援會事業資金
礦金方ノ件

今般通債報國團統後後援會資金充實ヲ圖ル爲十二月分俸給料ヨリ月額二百分ノ一ニ相當スル額ヲ礦金ノコトト相成タルニ付テハ貴寮ニ於テモ之ヲ取積メノ上振替橫濱四〇番宛(内譯明記ノコト)送付相成度

○海航標識第二六二三號

昭和十七年十二月一日

標識課長

各燈臺長
各信號所長

電報文ニ關スル件

從來各航路標識ヨリ本部宛電報照會ヲナス際往々文書番號ノミヲ記載打電スル向有之處理上支候付テハ今後ハ件名ヲ要約記入相成度

附錄 昭和十七年十二月十四日

裏面白紙

裏面白紙

院報附録

第五號
昭和十八年一月十八日(月曜日)

通牒

海航標第一五號

昭和十八年一月十八日

各所 標識 課
觀察船、燈臺閣特定信號ノ件

最近ノ情勢ニ鑑ミ觀察船ト燈臺又ハ觀察員
ノ通信連絡上左記ノ通特定信號ヲ設定、次回
視察ヨリ實施ノ旨ニ付了知相成度
記
○特定信號
一、觀察船—燈臺

信號符字	意義	了
A	上陸可能ナリヤ	可能ノ場合—回答旗全揚 (回答旗ナキ場合ハ 白旗ヲ左右ニ振ル)
B	天候不良ノ爲風波風次第視察ス 本日視察セズ明朝ナス豫定	不能ノ場合—同上後直ニ仰ス (赤旗ヲ左右ニ振ル)
C	風波高クナル見込ニ配給品陸揚手 配アレ	回答旗(回答旗ナキ場合ハ手旗) 信號法ニ依ル解信記號
D	風波ノ爲配給品陸揚不能便宜ノ地ヨ リ廻送ス	
E	天候不良ノ爲觀察員最寄ノ地ヨリ陸 行	
F	天候平穩トナル見込當分ナシ今回視 察中止配給物品ハ便宜ノ地ヨリ廻送 ス	
G	天候悪化ノ見込觀察員ハ直チニ歸船 セヨ	
H	天候悪化ス本船ハ最寄安全地帯ニ避 難ノ上風波風キ次第上陸地帯ニ出向 ク尙連絡ハ電信ニ依ル	
I		

信號符字	意義	了
J	觀察艇故障ノ爲迎ヘニ廻レル見込	回答旗
K	船内ニ醫師ヲ必要トス直チニ歸レ	
L	國旗ノ下ニ向テ	回答旗
M	觀察在動者ニ急病人アリ船醫ヲ頼ム 急用アリ直チニ機艇手配アレ	
N	觀察相當長引ク見込	
O	都合ニ依リ觀察員ハ陸路次ノ觀察箇 所ニ向テ船中直チニ出帆アリ度	
P		

彙報

燈臺官吏養成所生徒募集

海務院ニ於テハ昭和十八年五月入學セシムベ
キ燈臺官吏養成所生徒ヲ左記要項ニ依リ募集
ス

一、募集人員 標識科約五十人 無線科約
三十人

一、志願者資格 昭和十八年四月一日ニ於テ
滿十七歳以上三十歳以下ノ
男子

一、願付締切 昭和十八年三月二十日
一、試験期日 昭和十八年四月五日六日
身體検査人物考査
四月七日

一、試験科目 學科試験
中學四年程度 國語(作文)
代數 初等英語 物理

中等學校卒業者ハ無試験
衡ノ特典アリ

一、試験地 横濱、名古屋、大阪、松江
門司、鹿兒島、新潟、青森
志願者心得其ノ他詳細ハ横濱市中區北仲通
海務院燈臺官吏養成所宛住所氏名ヲ明記セル
封筒ニ四錢切手ヲ貼付セルモノヲ添ヘ照會ノ
コト

○十七年十二月十四日附院報附録ハ第四號ナ
リ

第五號 昭和十八年一月十八日

院報附録

第五號
昭和十八年一月十八日(月曜日)

通牒

海航標第一五號
昭和十八年一月十八日
各所 標識課
視察船、燈臺間特定信號ノ件

最近ノ情勢ニ鑑ミ視察船ト燈臺又ハ視察員間ノ通信連絡上左記ノ通特定信號ヲ設定、次回視察ヨリ實施ノ旨ニ付了知相成度
○特定信號
一 視察船—燈臺

信號符字	意義	了解
燈臺標ノ下A	上陸可能ナリ	可能ノ場合—回答旗全揚
B	天候不良ノ爲風波風次第視察ス	回答旗ナキ場合ハ 白旗ヲ左右ニ振ル
C	本日視察セズ明朝ナス豫定	不能ノ場合—同上後直ニ仰ス
D	風波高クナル見込ニ配給品陸揚手配アレ	回答旗(回答旗ナキ場合ハ手旗) 赤旗ヲ左右ニ振ル
E	風波ノ爲配給品陸揚不能便宜ノ地ヨリ廻送ス	
F	天候不良ノ爲視察員最寄ノ地ヨリ陸行	
G	天候平穩トナル見込當分ナシ今回視察中止配給物品ハ便宜ノ地ヨリ廻送ス	
H	天候悪化ノ見込視察員ハ直チニ歸船セヨ	
I	天候悪化ス本船ハ最寄安全地帯ニ避難ノ上風波風次第上陸地帯ニ出向ク尙連絡ハ電信ニ依ル	

信號符字	意義	了解
J	視察艇故障ノ爲迎ヘニ廻レル見込	
K	船内ニ醫師ヲ必要トス直チニ歸レ	
L	國旗ノ下ニ上陸地ニ向フ	回答旗
M	燈臺在勤者ニ急病人アリ船醫ヲ頼ム	
N	急用アリ直チニ機艇手配アレ	
O	視察相當畏引ク見込	
P	都合ニ依リ視察員ハ陸路次ノ視察箇所ニ向フ此船ハ直チニ出帆アリ度	

彙報

燈臺官吏養成所生徒募集
海務院ニ於テハ昭和十八年五月入學セシムベキ燈臺官吏養成所生徒ヲ左記要項ニ依リ募集ス

一、募集人員 標識科約五十人 無線科約三十人
一、志願者資格 昭和十八年四月一日ニ於テ満十七歳以上三十歳以下ノ男子
一、願書締切 昭和十八年三月二十日
一、試験期日 昭和十八年四月五日六日
身體検査人物考査 四月七日

一、試験科目 學科試験 中學四年程度 國語(作文) 代數 初等英語 物理

中等學校卒業者ハ無試験錄簿ノ特典アリ
一、試験地 横濱、名古屋、大阪、松江、門司、鹿兒島、新潟、青森
志願者心得其ノ他詳細ハ横濱市中區北仲通海務院燈臺官吏養成所須住所氏名ヲ明記セル封筒ニ四錢切手ヲ貼付セルモノヲ添ヘ照會ノコト

○十七年十二月十四日附院報附録ハ第四號ナリ

裏面白紙



昭和拾八年四月四日

院報附録

第六六號

昭和十八年三月二十二日(月曜日)

遠

燈臺官吏養成所生徒採用試験受驗者中合格採用者ニ旅費支給ニ關スル件左ノ通定ム

昭和十八年三月二十二日

海務局長官 松本 益吉

燈臺官吏養成所生徒採用試験受驗者中合格採用者ニ旅費支給ニ關スル件

燈臺官吏養成所生徒志願者ニシテ採用試験受驗者中合格採用者ニ對シ左ノ區分ニ依リ選省內國旅費規程第二十條ニ定ムル同額ノ鐵道賃、船賃及軍馬賃ヲ支給ス

一、本人居住地ト受驗地ト往復

二、本人居住地ヨリ燈臺官吏養成所迄ノ片道

本送ハ本日より之ヲ施行ス

通

○海航標第四四號 昭和十八年三月六日

燈臺長 殿 標 職 課 長

業務報告書類等ノ簡素化ニ關スル件

一般行政事務簡素化ノ趣旨ニ依リ現時下比較的緊急性乏シキ左記事務ニ付夫々臨時措置ヲ

講スルコトトシ三月一日ヨリ實施ノコトニ決裁セラレタルニ付報告書類ノ提出期限其ノ他之ガ取扱方ニ付遺漏ナキヲ期セラレ度

記

一、燈臺直日誌ノ兼用

現在燈臺、霧信號所各別ニ當直日誌ヲ設備シアルモ其ノ使用狀況ヨリ判斷シ之ヲ一冊ニテ兼用スルモ支障ナシト認メラルルニ依リ燈臺直日誌當直記事欄ニ一線ヲ劃シ霧信號日誌ト兼用スルコト

二、各種事業報告ノ様式及提出期日ノ變更

各所ヨリ當部ニ提出スル燈臺事業報告、霧信號事業報告及無線方位信號業務概要表ハ自今附録様式ニ依ルコト

但各所ニ於テハ從來通ノ用紙ニ依リ毎月所要事項ヲ記載シ置キ報告ノ際ノミ改正様式ニ依ルコト、各事業報告ノ提出期日左ノ通燈臺事業報告及霧信號事業報告

前月分迄ノ分ヲ一月一日及七月一日ノ二回

無線方位信號業務概要表

前月分迄ノ分ヲ一月二日、五月二日、九月一日ノ三回

三、視察ニ關スル事務ノ臨時措置

通常視察復命書及特別視察復命書並ニ視察規程第三十條ニ依ル視察伺書ハ當分ノ間提出ヲ見合ハスコトトナリタルニ付各所ニ於

テ視察伺ニ關スル事項ハ別途申出ヲ詳具シテ伺出ツルコト

四、緊急性乏シキ諸報告ノ整理

(イ) 左ノ諸報告ハ廢止ス

無線事故報告 昭和九年九月燈臺甲第三

霧信號繼孔紙 五〇一號通牒

燈臺事業報告

燈臺長 氏

附録様式

名印

燈臺長 氏

名印

燈臺長 氏

名印

燈臺長 氏

名印

燈臺長 氏

名印

燈臺長 氏

名印

燈臺長 氏

名印

燈臺長 氏

名印

燈臺長 氏

名印

燈臺長 氏

名印

燈臺長 氏

名印

燈臺長 氏

名印

燈臺長 氏

名印

燈臺長 氏

名印

燈臺長 氏

名印

燈臺長 氏

名印

燈臺長 氏

名印

燈臺長 氏

名印

燈臺長 氏

名印

燈臺長 氏

名印

燈臺長 氏

名印

燈臺長 氏

名印

燈臺長 氏

名印

燈臺長 氏

名印

燈臺長 氏

名印

燈臺長 氏

名印

燈臺長 氏

名印

燈臺長 氏

名印

燈臺長 氏

重要燃料消費狀況

品名	排出高	計現在高	摘要			
			燈臺用、無線充電用、備船用、霧信號用、別記ノコト	通過船	通過船	信號報、參觀者
燈油			回数	件數	件數	人數
輕油			累計	累計	累計	累計
重油						
機械油						
揮發油						
モビール油						
カーバイド						
アルコール						
貯氣筒						
電球						

テノ

7.10/10A1

7.10/10A1

7.10/10A1

7.10/10A1

7.10/10A1

7.10/10A1

乾燥劑	
火 會	
清淨劑	

備考
 標識名欄ニハ本燈ノ外見廻標識名モ記載ス
 ルコト燈器欄ニハ燈器名ノ外火口ノ大サ電
 球W數ヲモ記載ノコト
 事故回数ハ標識別ニ記載スルコト
 事故事由ハ斷線、線路事故、發電機事故、
 火口事故等ト略記ノコト

消耗品名中關係ナキモノハ記載スルニ及バ
 ズ燈油ニハ輕油、重油以外ノ石油ノ數量ヲ
 記載スルコト
 取職スベキ數字ハ總テ七月二日提出ノ分ハ
 自一月至六月合計ヲ又二月二日提出ノ分ハ
 自七月至十二月合計トスルコト

霧信號事業報告 (自 月 分 至 月 分)
 霧信號所長 氏 名 印

標 識 名	信 號 種 別	現 用 豫 備
種 別	執行回数	霧信號機械種類及馬力
霧	回数	
雪	累計	
雨	時間	
其ノ他	累計	
	摘 要	

昭和 年 月 無線方位信號業務概要

〇〇無線方位信號所

月	方位測定					測定不能	要求ニヨル 標識發射	連絡不能	雜 件	取扱件數	交 延時間
	晴	曇	霧	雨	計						
合計											

〇海航標第五一八號
 昭和十八年三月二十二日
 海務院航路標識課課長
 各所一 般
 看守人賞與支給ニ關スル件
 今般多年勤勞シ職務ニ格別勉勵シタル
 航路標識看守人退職又ハ死亡シタル際
 賞與支給方證議セララル事ト相成候ニ
 付了知ノ上退職又ハ死亡シタル際ハ其
 ノ旨上申相成度

昭和拾八年四月四日

院報附錄

第六號

昭和十八年三月二十二日(月曜日)

達

燈臺官吏養成所生徒採用試験受験者中合格採用者ニ旅費支給ニ關スル件左ノ通定ム
昭和十八年三月二十二日
海務院長官 松本 益吉

燈臺官吏養成所生徒採用試験受験者中合格採用者ニ旅費支給ニ關スル件
燈臺官吏養成所生徒採用試験受験者中合格採用者ニ旅費支給ニ關スル件

燈臺官吏養成所生徒採用試験受験者中合格採用者ニ旅費支給ニ關スル件
燈臺官吏養成所生徒採用試験受験者中合格採用者ニ旅費支給ニ關スル件

燈臺官吏養成所生徒採用試験受験者中合格採用者ニ旅費支給ニ關スル件
燈臺官吏養成所生徒採用試験受験者中合格採用者ニ旅費支給ニ關スル件

通牒

○海航標第四四四號 昭和十八年三月六日
燈臺長 殿 標 職 課 長

業務報告書簡略ノ簡素化ニ關スル件

一般行政事務簡素化ノ趣旨ニ依リ職時下比較的緊急性之シキ左記事務ニ付夫々臨時措置ヲ

講ズルトトシ三月一日ヨリ實施ノコトニ決裁セラレタルニ付報告書類ノ提出期限其ノ他之ヲ取敢方ニ付遺漏ナキヲ期セラレ度

記

燈臺管直日誌ノ兼用

現在燈臺、霧信號所各別ニ管直日誌ヲ設備シタルモ其ノ使用状況ヨリ判斷シ之ヲ一冊ニテ兼用スルモ支障ナシト認メラルルニ依リ燈臺管直日誌兼用記事欄ニ線ヲ劃シ霧信號日誌ト兼用スルコト

二、各種事業報告ノ様式及提出期日變更各所ヨリ當部ニ提出スル燈臺事業報告、霧信號事業報告及無線方位信號業務概要表ハ自今附録様式ニ依ルコト

但各所ニ於テハ從來通ノ用紙ニ依リ毎月所要事項ヲ記載シ置キ報告ノ際ノ改正様式ニ依ルコト、各事業報告ノ提出期日左ノ通燈臺事業報告及霧信號事業報告

前月分迄ノ分ヲ一月二日及七月一日ノ二回
無線方位信號業務概要表
前月分迄ノ分ヲ一月一日、三日、五月一日、九月一日ノ三回

三、視察ニ關スル事務ノ臨時措置
通常視察復命書及特別視察復命書並ニ視察規程第三十條ニ依リ視察何書ハ當分ノ間提出ヲ見合ハスコトナリタルニ付各所ニ於

テ視察何ニ關スル事項ハ別途事山ヲ詳具シテ提出スルコト

四、緊急性之シキ諸報告ノ整理

(イ) 左ノ諸報告ハ廢止ス

無線事故報告 昭和九年九月燈臺甲第二

霧信號鑽孔紙 五〇一號通牒

看守人報告

(ロ) 左ノ諸報告ハ二月分取纏メ提出ノコト

標識燈火異變報告

電燈故障報告
(ハ) 左ノ報告ハ六ヶ月分取纏メ提出ノコト
霧信號看守報告 昭和七年三月燈臺甲第七五三號通牒

燈臺事業報告 燈臺長 氏

名印

標識名	燈	器	事故	主ナル事故	通過船	通過船	信號報	參觀者
	現用	非常用	回数	由	船數	件數	件數	人數
	累計	回数	累計		累計	累計	累計	累計

重要燃料消費狀況

品名	抽出高	計現在高	摘要
燈油			燈臺用、無線充電用、備船用、霧信號用ノ別ヲ記載ノコト
輕油			
重油			
機械油			
揮發油			
モビール油			
カーバイド			
アルコール			
アセトン			
貯氣筒			
電球			

第六號 昭和十八年三月二十二日發行

種別	執行回数	執行時間	摘	要	備考	乾燥劑	火舎	消淨劑
						霧信號機種類及屬力	現用	深
霧					備考 標識名稱ニハ本燈ノ外見廻標識名モ記載ス ルコト燈器欄ニハ燈器名ノ外火口ノ大サ電 球V數ヲモ記載ノコト 事故回数ハ標識別ニ記載スルコト 事故事由ハ斷線、線路事故、發電機事故、 火口事故等ト略記ノコト 霧信號業務報告 (自 月 分 至 月 分) 霧信號所長 氏 名印 消耗品名由關係ナキモノハ記載スルニ及バ ス燈油ニハ輕油、重油以外ノ石油ノ數量ヲ 記載スルコト 記載スベキ數字ハ總テ七月二日提出ノ分ハ 自一月至六月合計ヲ又二月二日提出ノ分ハ 自七月至十二月合計トスルコト			
雨								
雪								
霧								
其他								

昭和 年 月 月無線方位信號業務概要

〇〇無線方位信號所

月	方位測定						測定不能	要求ニヨル 標識發射	連絡不能	雜件	取扱件數	交延時間
	晴	曇	雪	雨	霧	計						
合計												

〇海航標第五一八號
 昭和十八年三月二十二日
 海務院航路部標識課長
 各所一般
 看守人賞與支給ニ關スル件
 今般多年勤績シ職務ニ格別勉勵シタル
 航路標識看守人退職又ハ死亡シタル際
 賞與支給方詮議セラルル事ト相成候ニ
 付了知ノ上退職又ハ死亡シタル際ハ其
 ノ旨上申相成度

昭和拾八年六月廿八日
七號 缺號

院報附錄

第八號
昭和十八年六月二十二日(月曜日)

○海航標第八七九號
昭和十八年五月三日
海務院航路部長

各所
交代期日及退職者員數ノ件
昭和十一年六月十日燈塔第三十八號交代期日
及退職者員數ノ件申密閣燈臺下密閣港南防波
堤燈臺ノ記亦欄第二號ヲ左ノ如ク改メ本日ヨ
リ之ヲ施行ス

○生徒入學
海務院燈臺官吏養成所ニ於テ五月二十日左ノ
者ヲ入學セシメタリ

彙報

新福科
村上周逸 村松山伸
山崎龜雄 山下喜信
崎山英道 村瀬高明
斯波悦夫 後藤廣志
飯島虎之助 菊川 薫
關口元 杉本厚
松本基 瀬尾昇博

平林郁郎	西岡幸吉
富田甲子	松根俊夫
大谷正純	手島才治
鈴木孝治	花香可治
加藤耕司	酒井幸一
岡里光治郎	松下正彦
山本景迪	入澤房雄
南洋總依託生	島田高春
札内三郎	
無線科	
堤坂三千雄	柳澤甚郎
安藤重治	衣笠郁文
岡崎金一	新井俊夫
吉谷平治	西澤武
桑野隆司	秦嘉一郎
赤池義隆	島内義英
祖父江貫節	山内金光
丸山成樹	船戸重信
渡邊賢太郎	棟方一正
寺尾徳一	渡邊光雄
臺灣總督府依託生	
井上勉	高橋立志
杉本英夫	

第八號 昭和十八年六月二十二日

裏面白紙

院報附錄

第八號 昭和十八年六月三十一日(月曜日) 號

通牒

○海航標第八七九號
昭和十八年五月三日

海務院航路部長

各所

交代期日及退職者員數ノ件

昭和十一年六月十日燈塔第三十八號交代期日及退職者員數ノ件
中室蘭燈臺ト室蘭港南防波堤燈臺ノ記事欄第二號ヲ左ノ如ク改メ本日ヨリ之ヲ施行ス

二 事務ノ繁閑ニ依リ燈臺長又ハ信號所長ハ兩燈臺ノ勤務者ヲ増減スルコトヲ得

彙報

○生徒入學

海務院燈臺官吏養成所ニ於テ五月二十日左ノ者ヲ入學セシメタリ

標識科

新 岡 章	村 松 山 伸
村 上 周 逸	山 下 喜 信
山 崎 龜 雄	村 瀬 高 明
崎 山 美 道	後 藤 廣 志
新 波 悅 夫	菊 川 繁
飯 島 虎 之 助	戸 川 厚
關 口 元 基	戸 本 厚
松 本 基	瀬 尾 博

第八號 昭和十八年六月三十一日

平 林 郁 郎	西 岡 幸 吉
富 田 甲 子	松 根 俊 夫
大 谷 正 純	手 島 才 治
鈴 木 孝 治	花 香 可 治
加 藤 耕 司	酒 井 幸 一
岡 里 光 治 郎	松 下 正 彦
山 本 景 迪	入 澤 房 雄
南洋總依託生	島 田 高 森
札 内 三 郎	
無 線 科	
堤 坂 三 千 雄	柳 澤 甚 郎
安 藤 重 治	衣 笠 郁 文
岡 崎 金 一	新 井 俊 夫
古 谷 平 治	西 澤 武
桑 野 隆 司	桑 嘉 一 郎
赤 池 義 隆	島 内 義 英
祖 父 江 貫 節	山 内 金 光
丸 山 成 樹	船 戶 重 信
渡 邊 賢 太 郎	棟 方 一 正
寺 尾 德 一	渡 邊 光 雄
臺灣總督府依託生	
井 上 勉	高 橋 立 志
杉 本 英 夫	

裏面白紙

昭和十八年七月七日

院報附録

第九號
昭和十八年六月二十八日(曜日)

通牒

○海軍標第一三二三號

昭和十八年六月二十三日

標識課長

各燈臺所長

官廳員ノ戰時衣生活ノ簡素化實施

ニ關スル件

官廳員ノ戰時衣生活簡素化ニ關スル申合左記ノ通次官會議ニ於テ決定相成タル趣海務院官房庶務課長ヨリ通報アリタルニ付了知相成度

記

官廳員ノ戰時衣生活簡素化ニ關スル申合セ

一八、六、三
次官會議

官廳員ハ率先シテ戰時衣生活ノ簡素化ヲ實行シ戰時衣生活簡素化ニ關スル國民運動ニ協力スルコトトシ差シ當リ左記ヲ實行スルコト
一、官中ニ關スル場合及法令ニ特別ノ定アル場合ノ外公私一切ノ儀禮ノ場合ニ於ケル衣服ニ關スル制限ヲ撤廃スルコト
二、夏期中ハ上衣ヲ着用セザルモ差支ナキコトトスルコト

訂正

五月三日海軍標第八七九號通牒ノ件名及第二

第九號 昭和十八年六月二十三日

行中退職者ハ退息者ノ誤リ

裏面白紙

院報附録

第九號
昭和十八年六月二十八日
號

道 牒

○海統標第一三三號

昭和十八年六月二十三日

標識課長

各信託所長

官廳員ノ戰時衣生活ノ簡素化實施

ニ關スル件

官廳員ノ戰時衣生活簡素化ニ關スル申合左記ノ通次官會議ニ於テ決定相成タル趣海務院官房庶務課長ヨリ通報アリタルニ付了知相成度

官廳員ノ戰時衣生活簡素化ニ關スル申合セ

一八、六、三

次官會議

官廳員ハ卒先シテ戰時衣生活ノ簡素化ヲ實行シ戰時衣生活簡素化ニ關スル國民運動ニ協力スルコトトシ差シ當リ左記ヲ實行スルコト
一、官中ニ關スル場合及法令ニ特別ノ定アル場合ノ外公私一切ノ儀禮ノ場合ニ於ケル衣服ニ關スル制限ヲ撤廢スルコト
二、夏期中ハ上衣ヲ着用セザルモ差支ナキコトトスルコト

訂 正

五月三日海統標第八七九號通牒ノ件名及第二

第九號 昭和十八年六月二十三日

行中退職者ハ退息者ノ限リ

裏面白紙

昭和拾八年八月壹日

院報附錄

第十號
昭和十八年七月二十六日(月曜日)

通牒

海航標第一八二八號 通牒

昭和十八年七月七日

燈臺長殿

標識課長

市外通話料調書ニ關スル件

本件今般省令第七二號ヲ以テ電話通話規則改正セラルレ市外通話料ハ七月ヨリ隔月納入ノコトト相成候ニ付キテハ從來毎月調製セシ標記調書ハ今後隔月提出相成度
追テ次回調書ハ七、八兩月分ヲ取纏メ九月ニ提出セラレ度猶託送電報料ニ付キテハ從來通ニ付了知相成度爲念

海航標第一八二三號 通牒

昭和十八年七月二十六日

各燈臺長

標識課長

選信報國團統後後授會
事業資金離金方ノ件

選信報國團統後後授會資金ノ充填ヲ圖ル爲七
月分俸給料ヨリ月額二百分ノニニ相當スル
額ヲ離金ノコトト相成タルニ付テハ燈臺長

第九號 昭和十八年七月二十六日

(符號所長)取纏メノ上横濱四〇番へ拂込相成
度
追テ拂込通知書ニハ本資金ナル旨註ニ内譯
明記相成度

櫻井 町
千代 町
阿部 町
川合 町
土井 町

受取	口座	番
加入者氏名	横濱	四〇番
金額	海務院	
票	航路部標識課	
金額 一 金 壹 圓 六 拾 五 錢 也		
印 日 局 付 交		
18.8.5		
省 信 選		

裏面白紙

昭和拾八年八月壹日

院報附録

第十號
昭和十八年七月二十六日(月曜日)

通牒

海航標第一八二八號 通牒

昭和十八年七月七日

燈臺長殿 標識課長

市外通話料調書ニ關スル件

本件今般省令第七二號ヲ以テ電話通話規則改正セラレ市外通話料ハ七月ヨリ隔月納入ノコトト相成候ニ付キテハ從來毎月調製セシ標配調書ハ今後隔月提出相成度
追テ次回調書ハ七、八兩月分ヲ取纏メ九月提出セラレ度精託送電報料ニ付キテハ従前同様に提出相成候

(信號所長)取纏メノ上横濱四〇番(拂込相成度)
追テ拂込通知書ニハ本資金ナル旨竝ニ内譯明記相成度

抄野
川合
木曾

第九號 昭和十八年七月二十六日

院報附録

第 十 號

昭和十八年七月二十六日(月曜日)

通 牒

海航標第一八二八號 通牒
昭和十八年七月七日

燈 臺 長 殿 標 識 課 長

市外通話料調書ニ關スル件

本件今般省令第七二號ヲ以テ電話通話規則改正セラレ市外通話料ハ七月ヨリ隔月納入ノコトト相成候ニ付キテハ從來毎月調製セシ標記調書ハ今後隔月提出相成度
追テ次回調書ハ七、八兩月分ヲ取纏メ九月ニ提出セラレ度發託送電報料ニ付キテハ從來通ニ付了知相成度爲念

海航標第一八二三號 通牒
昭和十八年七月二十六日

各 燈 臺 長 標 識 課 長
各 信 號 所 長

選信報國團統後援會
事業資金離金方ノ件

選信報國團統後援會資金ノ充填ヲ圖ル爲七
月分俸給給料ヨリ月額二百分ノ一ニ相當スル
額ヲ離金ノコトト相成タルニ付テハ燈臺長

第九號 昭和十八年七月二十六日

(信號所長)取纏メノ上横濱四〇番へ拂込相成
度
追テ拂込通知書ニハ本資金ナル旨並ニ内譯
明記相成度

裏面白紙

01234567892

裏面白紙

昭和十八年九月三日

院報附録

第十一號
昭和十八年八月三十日(月曜日)

通牒

海航標第二〇〇二號通牒

昭和十八年八月四日

標識課長

燈臺長

徵兵検査受檢者入營入隊者ニ
關スル件

徵兵検査受檢者入營入隊者ハ左記ニ依リ處理
相成候周知セシメラレ度

記

一、徵集年該當者ハ其ノ年ノ一月十日迄ニ届
出ノコト

二、徵兵検査ノ結果ハ彙ニ通牒通報ノコト

三、入營決定シタル場合ハ現役證書寫添附燈
臺長連名通報ノコト

四、召集ヲ命ゼラレタル場合ハ令狀寫ヲ添へ
燈臺長連名届出ノコト

五、應召者ハ俸給給料等一切送金先立ニ被送
金者タルベキ者ニ對スル本人ノ委任狀提
出ノコト

六、入營入隊後ハ直チニ軍隊ノ發行スル給與
證明書提出ノコト

七、軍隊ニ在リテノ進級又ハ任官ノ際ハ必ズ
給與證明書ヲ添へ通報ノコト

第十二號 昭和十八年八月三十日

八、除隊又ハ解除セラレタルモノハツノ旨速
達便ヲ以テ回報スルコト

(現住所明記ノコト)

海航工第九四九號

昭和十八年八月三十日

海務院航路部工作課長

各燈臺長

信號所長

防空待避所整備増強ニ關スル件

右ニ關シ内務省ヨリ協力方來牒ノ次第モ有之

未施設ノ箇所ハ速急左記圖面ニ依ヒ所在員數

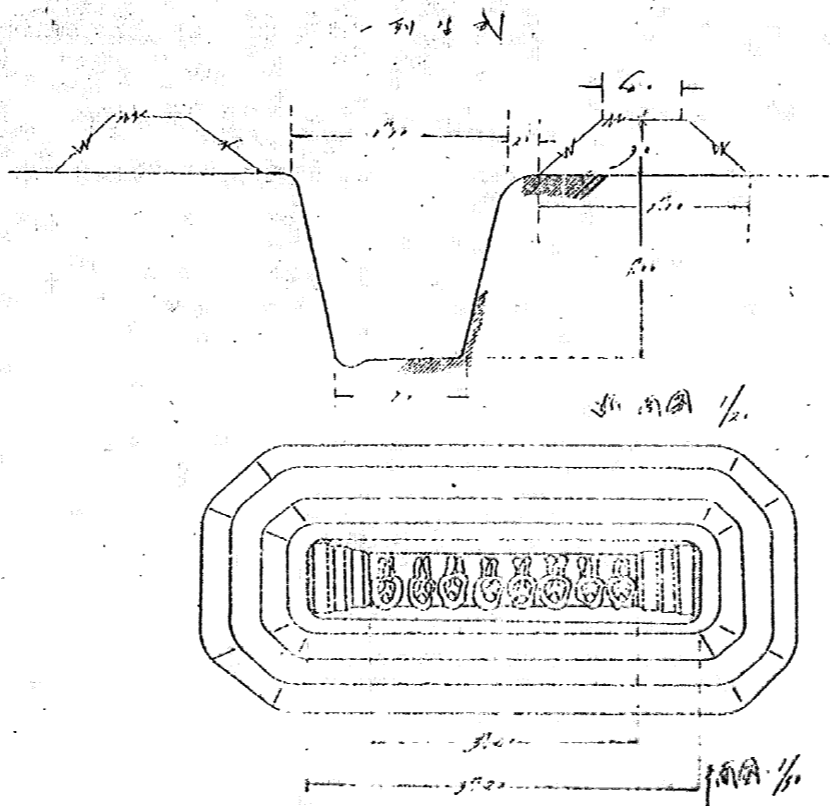
ニ應ジ可然詰員施行シ其ノ結果位置圖添付ノ

上報告相成度依命

尙既ニ設置済ノ箇所ハ施行年月日及其ノ位

置報告相成度

待避所造成圖



01234567892

裏面白紙

院報附録

第十一號

昭和十八年八月三十日(月曜日)

通牒

海航標第三〇〇二號通牒

昭和十八年八月四日

燈臺長 標 磯 課 長

徵兵検査受檢者入營入隊者ニ
關スル件

徵兵検査受檢者入營入隊者ハ左記ニ依リ處理
相成様周知セシメラレ度

記

- 一、徵集年該當者ハ其ノ年ノ一月十日迄ニ届
出ノコト
- 二、徵兵検査ノ結果ハ彙ニ通牒通報告ノコト
- 三、入營決定シタル場合ハ現役證書寫添附燈
臺長連名連報ノコト
- 四、召集ヲ命セラレタル場合ハ令狀寫ヲ添へ
燈臺長連名届出ノコト
- 五、應召者ハ俸給給料等一切送金先並ニ被送
金者タルベキ者ニ對スル本人ノ委任狀提
出ノコト
- 六、入營入隊後ハ直チニ軍隊ノ發行スル給與
證明書提出ノコト
- 七、軍隊ニ在リテノ進級又ハ任官ノ際ハ必ズ
給與證明書ヲ添へ連報ノコト

第十一號 昭和十八年八月三十日

八、除隊又ハ解除セラレタルモノハソノ留連
速便ヲ以テ回報スルコト

(現任所明記ノコト)

海航工第九四九號

昭和十八年八月三十日

海務院航路部工作課長

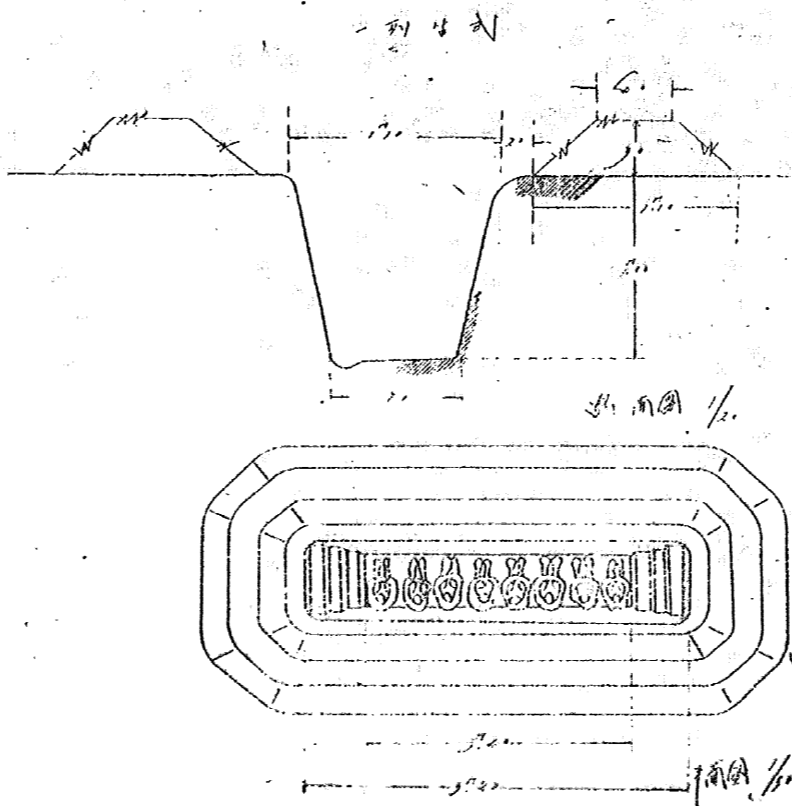
各燈臺長

信號所長

防空待避所整備増強ニ關スル件

右ニ關シ内務省ヨリ協力方來牒ノ次第モ有之
未施設ノ個所ハ速急左記圖面ニ依ヒ所在員數
ニ應ジ可然詰員施行シ其ノ結果位置圖添付ノ
上報告相成度依命
尙既ニ設置済ノ個所ハ施行年月日及其ノ位
置報告相成度

待避所造成圖



昭和十八年九月拾七日

院報附録

第 十 二 號
昭和十八年九月十三日(月曜日)

通 牒

○海航標第二一五六號

昭和十八年九月十三日

標 識 課 長

燈 臺 所 長

信 號 所 長

選信部内職員章佩用ニ關スル件
右ニ關スル内規制定相成從來使用ノ標章(選信部内職員章)ヲ其ノ儘職員章ニ變用スルトトナリタルニ付左記了知ノ上可然取計相成度

記

一職員章ノ交付ヲ要スル場合ハ男子用、女子用ニ區分シ航路標識課宛請求ノコト
向算出根據(増員、毀損、亡失等ニ區分)要求事由ヲ附スルコト

二職員章ノ貸與返還ハ嚴重ニナシ貸與簿ヲ備ヘ用納ノ狀況ヲ明カニシ置クコト

三内規第六條ハ個人的趣好若クハ之ニ類スル徽章ノ佩用ハ之ヲ禁ズル趣旨ナルコト、從テ選信選號規程ニ依ル徽章ノ如キハ固ヨリ之ヲ佩用スルモ支ヘナキコト

選信部内職員章佩用ニ關スル内規

第一條 職員ハ常ニ選信部内職員章(以下單稱ス)ヲ佩用スベシ但シ官中ニ關スル場合

第十三號 昭和十八年九月十三日

及法令ニ特別ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ職員章ノ制式及形狀ハ附圖ニ依ル

第二條 職員章ハ上衣ノ左襟部又ハ左胸部其ノ他見易キ箇所ニ之ヲ佩用スベシ

第三條 職員章ハ之ヲ本省ニ於テ調製シ各局所ノ長ヲシテ其ノ所屬職員ニ貸與セシムルモノトス

第四條 職員章ヲ亡失又ハ毀損シタル者ハ所屬各局所ノ長ニ其ノ事由ヲ詳具シタル屆書ヲ提出シ新ニ之ガ貸與ヲ受クベシ

職員ニシテ退官、退職其ノ他ノ事由ニ依リ其ノ身分ヲ喪失シタル者アルトキハ各局所ノ長ハ必ズ其ノ職員章ヲ返還セシムベシ

第五條 職員章ハ職員ニアラザル者ニ之ヲ轉貸スルコトヲ得ズ

第六條 各局所ニ於テ自局所ヲ表示スル爲メ制定シタル徽章ハ之ヲ職員章ト併用スルヲ妨

附 則

本内規ハ昭和十八年七月三十日ヨリ之ヲ施行ス

制式及形狀(略)

○海航工第一〇三九號

昭和十八年九月十三日

海務院航路部工作課長

各 燈 臺 所 長

信 號 所 長

豫備燈器整備方ノ件

大東亞戰爭ハ一段ト深刻奇烈ヲ加ヘ敵航空機ノ來襲必至ト見ラルル今日現用燈器ノ不慮ノ災害ヲ考慮シ豫備燈器ハ當ニ其ノ機能ノ良否ヲ精査シ之レガ格納ニ當リテハ現用燈器ト同時ニ被害ヲ蒙ルル惧ナキ場所ヲ選定スル等有效適切ナル措置ヲ講シ所管外航路標識ノ災害ニ對シテモ直ニ應急ノ用ニ適スル様之レガ整備ニ格段ノ留意相成度依命

裏面白紙

院報附録

第十 二 號
昭和十八年九月十三日(月曜日)

道 牒

○海航標第一一五六號

昭和十八年九月十三日

標 識 課 長

燈 臺 所 長

信 號 所 長

選信部内職員章佩用ニ關スル件
右ニ關スル内規制定相成從來使用ノ標章(選
信部内職員章)ヲ其ノ儘職員章ニ變用スルコ
トトナリタルニ付左記ノ知ノ上可然取計相成
度

記

一 職員章ノ交付ヲ要スル場合ハ男子用、女子
用ニ區分シ航路標識課宛請求ノコト
尙算用根據(増員、毀損、亡失等ニ區分)
要求事由ヲ附スルコト
二 職員章ノ貸與返還ハ嚴重ニナシ貸與簿ヲ備
へ出納ノ狀況ヲ明カニシ置クコト
三 内規第六條ハ個人的趣好若クハ之ニ類スル
徽章ノ佩用ハ之ヲ禁ズル趣旨ナルコト、從
テ選信選裝規程ニ依ル徽章ノ如キハ固ヨリ
之ヲ佩用スルモ支ヘナキコト

選信部内職員章佩用ニ關スル内規
第一條 職員ハ常ニ選信部内職員章(以下單
章ト)ヲ佩用スベシ但シ宮中ニ關スル場合
得ス

第十二號 昭和十八年九月十三日

及法令ニ特別ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラ
ズ職員章ノ制式及形狀ハ附圖ニ依ル

第三條 職員章ハ上衣ノ左襟部又ハ左胸部其
ノ他見易キ個所ニ之ヲ佩用スベシ

第三條 職員章ハ之ヲ本省ニ於テ調製シ各局
所ノ長ヲシテ其ノ所屬職員ニ貸與セシムル
モノトス

第四條 職員章ヲ亡失又ハ毀損シタル者ハ所
屬各局所ノ長ニ其ノ事由ヲ詳具シタル圖書
ヲ提出シ新ニ之ヲ貸與ヲ受クベシ

職員ニシテ退官、退職其ノ他ノ事由ニ依リ
其ノ身分ヲ喪失シタル者アルトキハ各局所
ノ長ハ必ズ其ノ職員章ヲ返還セシムベシ

第五條 職員章ハ職員ニアラザル者ニ之ヲ轉
貸スルコトヲ得ズ

第六條 各局所ニ於テ自局所ヲ表示スル爲制
定シタル徽章ハ之ヲ職員章ト併用スルヲ妨
グズ

附 則

本内規ハ昭和十八年七月三十日ヨリ之ヲ施
行ス

制式及形狀(略)

○海航工第一〇三九號

昭和十八年九月十三日

海務院航路部工作課長

各 燈 臺 所 長

信 號 所 長

豫備燈器整備方ノ件

大東亞戰爭ハ一段ト深刻奇烈ヲ加ヘ敵航空機
ノ來襲必至ト見ラルル今日現用燈器ノ不慮ノ
災害ヲ考慮シ豫備燈器ハ常ニ其ノ機能ノ良否
ヲ精査シ之レガ格納ニ當リテハ現用燈器ト同
時ニ被害ヲ蒙ルル俱ナキ場所ヲ選定スル等有
效適切ナル措置ヲ請フ所管外航路標識ノ災害
ニ對シテモ直ニ應急ノ用ニ適スル様之レガ整
備ニ格段ノ留意相成度依命

裏面白紙

昭和十八年拾月拾七日

院報附録

第十三號

昭和十八年十月十一日(月曜日)

達

海航標第三四一六號

昭和十八年十月二日

海務院航路部標識課長

各所一覽

外出特許ノ件中追加ノ件

昭和十三年四月燈達第二七號外出特許ノ件左

記ノ追加シ昭和十八年十一月一日ヨリ之ヲ

實施スルコトナリタルニ付諒知相成度

記

海航標第三四一六號

昭和十八年十月三日點燈開始スベシ

其蓋ハ昭和十八年九月三十日

昭和十八年九月三十日

海務院長官 松 木 益 吉

燈臺名	外出回数	一回ノ外出時間	外出場所	備考
三島	二箇月壹回	四日以内	博多市	外出回数ハ所員一人ニ對スルモノトス

第十三號 昭和十八年十月十一日

裏面白紙

院報附録

第十 三 號
昭和十八年十月十一日(月曜日)

達

海航標第三四〇八號
達第十九號 石 埼 燈 臺

其臺ハ昭和十八年十月三日點燈開始スベシ
昭和十八年九月三十日
海務院長官 松 木 益 吉

通 牒

海航標第三四一六號 昭和十八年十月二日

海務院航路部標識課長

各 所 一 般

外出特許ノ件中追加ノ件

昭和十三年四月燈達第三七號外出特許ノ件左

記ノ追加シ昭和十八年十一月一日ヨリ之ヲ

實施スルコトナリタルニ付諒知相成度

記

燈臺名	外田回數	一回ノ 外田時間	外出場所	備 考
三 島	二箇月壹回	四日以内	博 多 市	外出回數ハ所員一人ニ對 スルモノトス

第十三號 昭和十八年十月十一日

裏面白紙

海務院報

第四十五號

昭和十八年十月二十五日(月曜日)

通牒

海員服第六〇五號 昭和十八年十月二十四日
海務院 船員部長

各海務局長
同支局長
各海員養成所長

授炭訓練並ニ檢定ニ關スル件
前題ノ件今般日本海運報國團ヲシテ左記要綱ニ依リ實施セシムルコトナリタルニ付了知相成度

第一方 針

授炭技術ノ巧拙ガ船舶ノ燃料消費、運航能率ニ影響スルコト甚大ナルニ鑑ミ日本海運報國團(以下單ニ團ト稱ス)ヲシテ燃費員及副燃費員ニ對スル授炭技術ノ訓練並檢定ヲ實施セシムルヲ以テ燃料ノ節約、運航能率ノ増進ヲ期スルト共ニ之等船員ノ心身鍛鍊ヲ圖ラントス

第二 要領

一、訓練及檢定施設
團ノ支團又ハ支團支所所在地ニ可及的授炭訓練所ヲ設置セシムル方針トスルモ差當リ小樽、横濱、大阪、神戸及戶州ノ五ヶ所ニ設置セシメ各訓練所ニ練習燈及檢定臺ヲ設備シ隨時授炭技術ノ訓練並ニ檢

定ヲ實施スルト共ニ各會社既設ノ訓練所ヲシテ之ニ協力セシムルモノトス
二、指導員及檢定員
各訓練所ニ指導員及檢定員ヲ當置スルモノトス

指導員ハ團職員中ノ適格者ヲ以テ之ニ充テ檢定員ハ團、船舶運賃會、日本海運協會其ノ他關係方面ノ適格者ニシテ團長ヨリ委嘱セラレタル者ヲ以テ之ニ充ツ
三、檢定並ニ檢定基準
所定ノ訓練ヲ受ケタル者(各會社別訓練所ノ訓練ヲ受ケタル者ヲ含ム)ニシテ指導員ヨリ推舉セラレタル者ニ對シ檢定ヲ行フ
檢定要領ハ左ニ依ル

(イ) 授炭様式ハ撒布式及交互式トシ石炭ハ粉炭、シヨベルハ普通型(三號型)ヲ用フ

(ロ) 揚炭量ハ一杯五瓦(十一斤)ヲ標準トシ之ヲ四列二十個ノ計量箱ヲ裝備セル火床面ニ投入セシム

(ハ) 三杯ノ授炭ヲ以テ一回トシ中央火爐及翼火爐ニ各二回宛撒布式及交互式ニ依リ授炭セシム

檢定基準ハ一回毎ニ左ノ探點法ニ依リ計

算シタル得點ニ依ル

(イ) 授炭ノ際ニ於ケル姿勢一〇〇點、動作一〇〇點ヲ滿點トシテ探點ス

(ロ) 撒布式ノ場合ハ計量箱一個ニ五〇〇瓦授炭セルヲ五〇點トシ一〇瓦ノ差アル毎ニ一點ヲ減ジ二〇箱ノ總計ヲ以テ得點トス

交互式ノ場合ハ計量箱四列ノ内片側ノ二列ノミニ授炭セシメ各箱一、〇〇〇瓦ヲ二〇〇點トシ一〇瓦ノ差アル毎ニ一點ヲ減ジ一〇箱ノ合計ヲ以テ得點トス
コノ場合反對側ノ計量箱ニ投入セルモノハ五〇〇瓦ニ達スル毎ニ第三列目ハ一點、第四列目ハ三點ヲ減ズ

(ハ) 授炭量ガ標準揚炭量ト一瓦以上ノ差アルトキハ一瓦ヲ超ユル分ニ付キ一〇〇瓦毎ニ二點ヲ減ズ(一〇〇瓦未満ハ四捨五入トス)

(ニ) 火爐ヲ超ヘタルモノハ一〇〇瓦ニ達スル毎ニ五點ヲ、火爐前面床ニ落下シタルモノハ一〇〇瓦ニ達スル毎ニ一點ヲ減ズ

右探點法ニ依リ中央火爐及翼火爐各四回ノ授炭成績ヲ探點シ姿勢、動作ノ得點ヲ除キ每回ノ得點五〇〇點以上ニシテ總得點二、八〇〇點以上ノ者ヲ一級合格者トシ每回ノ得點三〇〇點以上ニシテ總得點二、〇〇〇點以上ノ者ヲ二級合格者トス但シ各級トモ姿勢動作ノ得點積レモ五〇

點以上ナルコトヲ要ス

四、檢定合格證書

檢定合格者ニ對シテハ團長ヨリ授炭手續證書ヲ各級別ニ授與スルモノトシ本證書授有者ニ對シテハ特ニ手當ヲ支給スル如ク措置スルモノトス
本證書ノ有效期間ハ交付ノ日ヨリ一ヶ年トス
本證書受有者ニシテ其ノ受有證書ノ有效期間滿了シタル者ニ對シテハ本人ノ申出ニ依リ再檢定ヲ施スモノトス

告知

海官調第三三〇號 昭和十八年十月二十五日
海務院官房庶務課長

各出納官吏宛

昭和十六年度出納官吏ニ對スル認可狀ニ關スル件

會計検査院ヨリ左記認可狀發付有之責任解除セラレタルニ付了知相成度
追而本人ニ對シテハ認可狀ハ送付セザルニ付併而了知相成度

認第一〇四號

認可 狀

會計検査院ハ左記證明計算ノ検査ヲ差ケ茲ニ其ノ責任ヲ解除ス

昭和十八年五月二十五日

記

選信省所管
昭和十六年度

第四十五號 昭和十八年十月二十五日

職名	管理期	職名	官名	氏名
燈臺工務局 燈臺工務局	至昭和十六年六月二十二日	臨時物品 會計官吏	技師局技師	山口喜重
燈臺工務局 防空施設工事	至昭和十六年六月九日	同	燈臺局書記	稻垣茂男
燈臺工務局 防空施設工事	至昭和十六年六月六日	同	燈臺局技師	長谷川京一
燈臺工務局 防空施設工事	至昭和十六年六月六日	同	燈臺局技師	須藤智助
燈臺工務局 防空施設工事	至昭和十六年六月六日	同	燈臺局技師	加納良孝
燈臺工務局 防空施設工事	至昭和十六年六月六日	同	燈臺局技師	永木貞松
燈臺工務局 防空施設工事	至昭和十六年六月六日	同	燈臺局技師	佐藤勇
燈臺工務局 防空施設工事	至昭和十六年六月六日	同	燈臺局技師	松澤孝四郎
燈臺工務局 防空施設工事	至昭和十六年六月六日	同	燈臺局技師	高桑孝雄
燈臺工務局 防空施設工事	至昭和十六年六月六日	同	燈臺局技師	同

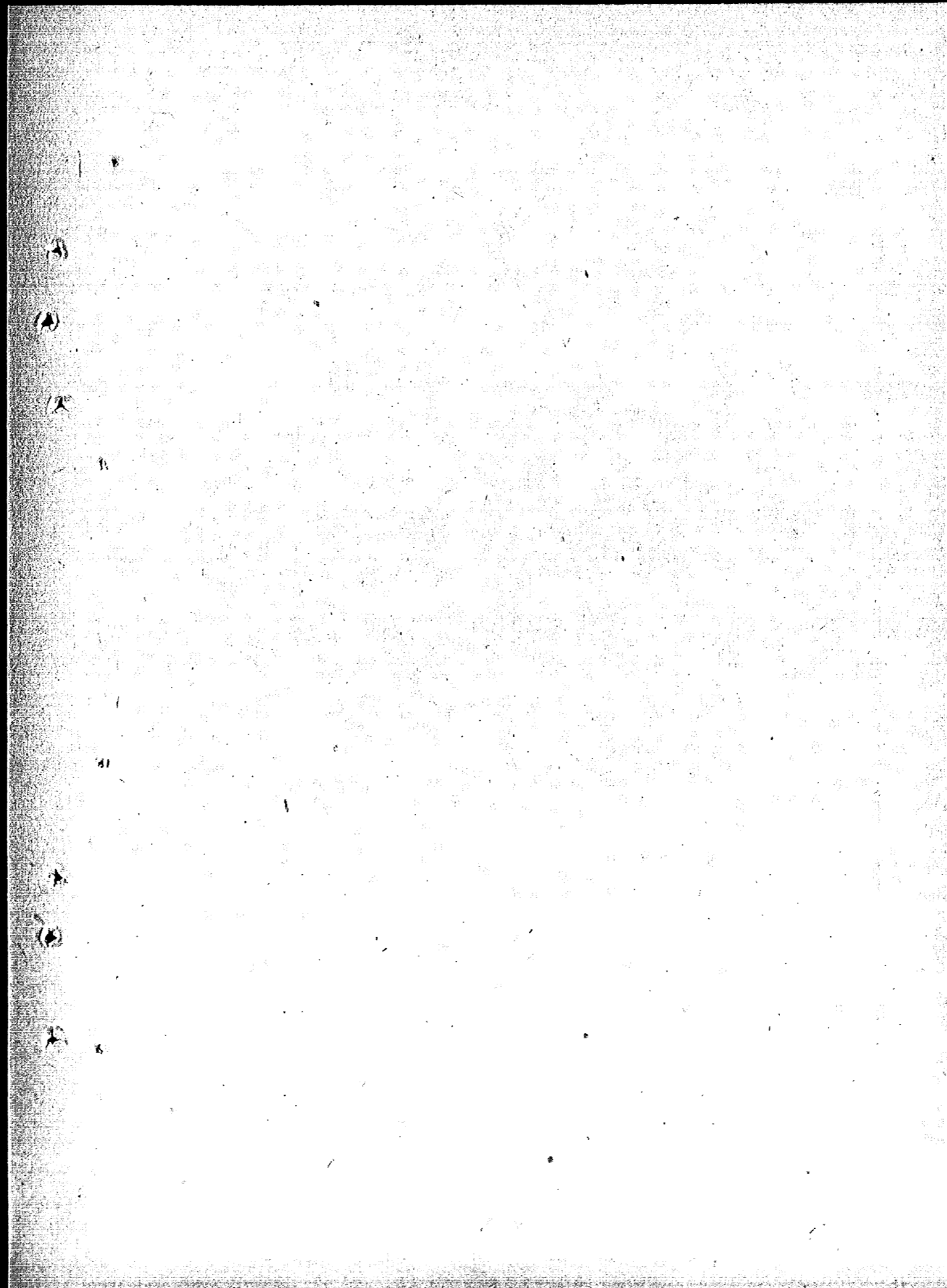
職名	管理期	職名	官名	氏名
燈臺工務局 防空施設工事	至昭和十六年六月六日	臨時物品 會計官吏	燈臺局技師	川野良佑
燈臺工務局 防空施設工事	至昭和十六年六月六日	同	燈臺局技師	關 那治郎
燈臺工務局 防空施設工事	至昭和十六年六月六日	同	燈臺局技師	同
燈臺工務局 防空施設工事	至昭和十六年六月六日	同	燈臺局技師	同
燈臺工務局 防空施設工事	至昭和十六年六月六日	同	燈臺局技師	同
燈臺工務局 防空施設工事	至昭和十六年六月六日	同	燈臺局技師	同
燈臺工務局 防空施設工事	至昭和十六年六月六日	同	燈臺局技師	同
燈臺工務局 防空施設工事	至昭和十六年六月六日	同	燈臺局技師	同
燈臺工務局 防空施設工事	至昭和十六年六月六日	同	燈臺局技師	同
燈臺工務局 防空施設工事	至昭和十六年六月六日	同	燈臺局技師	同

職名	管理期	職名	官名	氏名
海務院 海務院	至昭和十七年七月三十一日	臨時物品 會計官吏	海務院技師	長谷川京一
海務院 海務院	至昭和十七年七月三十一日	同	海務院技師	沼崎時義
海務院 海務院	至昭和十七年七月三十一日	同	海務院技師	永木貞松
海務院 海務院	至昭和十七年七月三十一日	同	海務院技師	澤田善治
海務院 海務院	至昭和十七年七月三十一日	同	海務院技師	石原 實
海務院 海務院	至昭和十七年七月三十一日	同	海務院技師	石原 實
海務院 海務院	至昭和十七年七月三十一日	同	海務院技師	佐藤 實
海務院 海務院	至昭和十七年七月三十一日	同	海務院技師	三宅 實
海務院 海務院	至昭和十七年七月三十一日	同	海務院技師	工藤 實
海務院 海務院	至昭和十七年七月三十一日	同	海務院技師	南里 實
海務院 海務院	至昭和十七年七月三十一日	同	海務院技師	甲賀 實
海務院 海務院	至昭和十七年七月三十一日	同	海務院技師	鈴木 實

兼任及辭令

海務院技師 栗山國雄
航路部工作課勤務ヲ命ス(十月十五日)
任商船學校教諭 給五級俸 横川正重
富山商船學校在勤ヲ命ス(十月十一日)
任海員養成所教官 給月俸七拾參圓 野木林太郎
高等海員養成所在勤ヲ命ス(十月十四日)
海務院屬 石寺義典
依願免本官(十月十八日)

官房庶務課



海務院報

第四十五號

昭和十八年十月二十五日(月曜日)

通 牒

海員服第六〇五號 昭和十八年十月二十四日

海務院 船員部長

各海務局長

同 支 局 長

各海員養成所長

投炭訓練並ニ檢定ニ關スル件

首題ノ件今般日本海運報國團ヲシテ左記要綱ニ依リ實施セシムルコトナリタルニ付了知相成度

投炭訓練並ニ檢定實施要綱

第一方 針

投炭技術ノ巧拙ガ船舶ノ燃料消費、運航能率ニ影響スルコト甚大ナルニ鑑ミ日本海運報國團(以下單ニ團ト稱ス)ヲシテ機關員及副手ニ對スル投炭技術ノ訓練並檢定ヲ實施セシム以テ燃料ノ節約、運航能率ノ増進ヲ期スルト共ニ之等船員ノ心身鍛鍊ヲ圖ラントス

第二 要 領

一、訓練及檢定施設
團ノ支團又ハ支團支團所在地ニ可及的投炭訓練所ヲ設置セシムル方針トスルモ差當リ小樽、横濱、大阪、神戸及片畑ノ五ヶ所ニ設置セシム各訓練所ニ練習臺及檢定臺ヲ設備シ同時投炭技術ノ訓練並ニ檢

定ヲ實施スルト共ニ各會社既設ノ訓練所ヲシテ之ニ協力セシムルモノトス

二、指導員及檢定員

各訓練所ニ指導員及檢定員ヲ常置スルモノトス
指導員ハ團職員中ノ適格者ヲ以テ之ニ充テ檢定員ハ團、船運監督會、日本海運協會其ノ他關係方面ノ適格者ニシテ團長ヨリ委嘱セラレタル者ヲ以テ之ニ充ツ

三、檢定並ニ檢定基準

所定ノ訓練ヲ受ケタル者(各會社別訓練所ノ訓練ヲ受ケタル者ヲ含ム)ニシテ指導員ヨリ推舉セラレタル者ニ對シ檢定ヲ行フ
檢定要領ハ左ニ依ル
(イ)投炭様式ハ撒布式及交互式トシ石炭ハ粉炭、シヨベルハ普通型(三號型)ヲ用フ
(ロ)揚炭量ハ二杯五瓦(十二斤)ヲ標準トシ之ヲ四列二十個ノ計量箱ヲ裝備セル火床面ニ投入セシム
(ハ)二杯ノ投炭ヲ以テ一回トシ中央火爐及翼火爐ニ各二回宛撒布式及交互式ニ依リ投炭セシム
檢定基準ハ一回毎ニ左ノ採點法ニ依リ計

算シタル得點ニ依ル

(イ)投炭ノ際ニ於ケル姿勢一〇〇點、動作一〇〇點ヲ滿點トシテ採點ス
(ロ)撒布式ノ場合ハ計量箱一個ニ五〇〇五投炭セルヲ五〇點トシ一〇瓦ノ差アル毎ニ一點ヲ減ジ二〇箱ノ總計ヲ以テ得點トス
交互式ノ場合ハ計量箱四列ノ内片側ノ二列ノミニ投炭セシメ各箱一、〇〇〇瓦ヲ一〇〇點トシ一〇瓦ノ差アル毎ニ一點ヲ減ジ一〇箱ノ合計ヲ以テ得點トス
コノ場合反對側ノ計量箱ニ投入セルモノハ五〇瓦ニ達スル毎ニ第三列目ハ一點、第四列目ハ三點ヲ減ズ

(ハ)投炭量ガ標準揚炭量ト一瓦以上ノ差アルトキハ一瓦ヲ超ユル分ニ付キ一〇〇瓦毎ニ二點ヲ減ズ(一〇〇瓦未滿ハ四捨五入トス)
(ニ)火橋ヲ超ヘタルモノハ一〇瓦ニ達スル毎ニ五點ヲ、火爐前面床ニ落下シタルモノハ一〇瓦ニ達スル毎ニ一點ヲ減ズ

右採點法ニ依リ中央火爐及翼火爐各四回ノ投炭成績ヲ採點シ姿勢、動作ノ得點ヲ除キ毎回ノ得點五〇點以上ニシテ總得點二、八〇〇點以上ノ者ヲ一級合格者トシ毎回ノ得點三〇〇點以上ニシテ總得點二、〇〇〇點以上ノ者ヲ二級合格者トス但シ各級トモ姿勢動作ノ得點執レモ五〇

點以上ナルコトヲ要ス

四、檢定合格證書
檢定合格者ニ對シテハ團長ヨリ投炭手續定證書ヲ各級別ニ授與スルモノトシ本證書授有者ニ對シテハ特ニ手當ヲ支給スル如ク措置スルモノトス
本證書ノ有効期間ハ交付ノ日ヨリ一ケ年トス
本證書受有者ニシテ其ノ受有證書ノ有効期間満了シタル者ニ對シテハ本人ノ申出ニ依リ再檢定ヲ施スモノトス

告 知

海官調第三三〇號 昭和十八年十月二十五日
海務院官房庶務課長

各 出 納 官 吏 宛

昭和十六年度出納官吏ニ對スル認可狀ニ關スル件

會計検査院ヨリ左記認可狀發付有之責任解除セラレタルニ付了知相成度

追而本人ニ對シテハ認可狀ハ發付セザルニ付併而了知相成度

記

認 第 一〇四號

認 可 狀

會計検査院ハ左記證明計算ノ検査ヲ差ケ茲ニ其ノ責任ヲ解除ス

昭和十八年五月二十五日

記

選信省所管

昭和十六年度

第四十五號 昭和十八年十月二十五日

職名	管	理	期	職名	氏名
燈臺局技手	山口喜重	自昭和一六、一二、一一	一七、一一、二一	燈臺局書記	稻垣茂男
燈臺局技手	長谷川京一	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	須藤晋助
燈臺局技手	加納良孝	自昭和一六、一〇、一五	一六、一〇、一八	燈臺局技手	永木貞松
燈臺局技手	佐藤勇	自昭和一六、一二、一八	一六、一二、二一	燈臺局技手	高桑孝雄
燈臺局技手	松澤孝四郎	自昭和一六、一〇、一八	一六、一〇、二一	燈臺局技手	沼崎時義
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同

職名	管	理	期	職名	氏名
燈臺局技手	川野良佑	自昭和一六、一二、一一	一七、一一、二一	燈臺局技手	川野良佑
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同
燈臺局技手	同	自昭和一六、一〇、一六	一六、一〇、一八	燈臺局技手	同

敍任及辭令

航海部工作課勤務ヲ命ス(十月十五日)
海務院技師 栗田國雄 橫川正重
任商船學校教諭 給五級俸
富山商船學校在勤ヲ命ス(十月十七日)
野木林太郎
任海員養成所教官 給月俸七拾參圓
高等海員養成所在勤ヲ命ス(十月十四日)
海務院屬 石寺 義典
依願免本官(十月十八日)

十月十八日附院報ハ休刊セリ
官房庶務課

職名	管	理	期	職名	氏名
海務院技手	長谷川京一	自昭和一七、一三、三一	一七、一三、三一	海務院技手	沼崎時義
海務院技手	同	自昭和一七、一三、三一	一七、一三、三一	海務院技手	同
海務院技手	同	自昭和一七、一三、三一	一七、一三、三一	海務院技手	同
海務院技手	同	自昭和一七、一三、三一	一七、一三、三一	海務院技手	同
海務院技手	同	自昭和一七、一三、三一	一七、一三、三一	海務院技手	同
海務院技手	同	自昭和一七、一三、三一	一七、一三、三一	海務院技手	同
海務院技手	同	自昭和一七、一三、三一	一七、一三、三一	海務院技手	同
海務院技手	同	自昭和一七、一三、三一	一七、一三、三一	海務院技手	同
海務院技手	同	自昭和一七、一三、三一	一七、一三、三一	海務院技手	同
海務院技手	同	自昭和一七、一三、三一	一七、一三、三一	海務院技手	同
海務院技手	同	自昭和一七、一三、三一	一七、一三、三一	海務院技手	同
海務院技手	同	自昭和一七、一三、三一	一七、一三、三一	海務院技手	同
海務院技手	同	自昭和一七、一三、三一	一七、一三、三一	海務院技手	同
海務院技手	同	自昭和一七、一三、三一	一七、一三、三一	海務院技手	同
海務院技手	同	自昭和一七、一三、三一	一七、一三、三一	海務院技手	同
海務院技手	同	自昭和一七、一三、三一	一七、一三、三一	海務院技手	同
海務院技手	同	自昭和一七、一三、三一	一七、一三、三一	海務院技手	同
海務院技手	同	自昭和一七、一三、三一	一七、一三、三一	海務院技手	同
海務院技手	同	自昭和一七、一三、三一	一七、一三、三一	海務院技手	同
海務院技手	同	自昭和一七、一三、三一	一七、一三、三一	海務院技手	同